

多摩川を歩く & 第 49 回多摩川流域セミナー 開催報告（速報版） ～⑧空間に行ってみよう!! 多摩川の自然再生の取り組み～

○日程：2017年11月5日（日）10:00～17:00

○場所：多摩川河川敷（⑧空間：永田・谷地川合流点・浅川合流点地区）・カワセミハウス

○主催：多摩川流域懇談会、多摩川流域協議会

表 1 プログラム

項目	時間	場所	参加者数
多摩川を歩く	10:00～15:00	多摩川河川敷：生態系保持空間（⑧空間） ①永田地区 ②谷地川合流点地区 ③浅川合流点地区	計 51 名 ⇒一般参加者：21 名 スタッフ（関係者）： 30 名
第 49 回多摩川流域セミナー	15:30～17:00	日野市立 カワセミハウス	

1. 多摩川を歩く

当日は晴天に恵まれ、21名の参加者にお集まりいただきました。「多摩川を歩く」では、多摩川に17箇所ある「生態系保持空間（通称：⑧（マルハチ）空間）」※中で、かつての自然環境を取り戻すために自然再生に取り組んでいる3地域（①永田地区、②谷地川合流点地区、③浅川合流点地区）を巡りながら、参加者の皆さんと一緒に多摩川の自然環境について話し合いました。

※⑧空間とは、学識経験者など専門家による生態学的な観点から、特に貴重で保全する必要があると認められた自然環境（広大な干潟、礫河原、希少な生物など）を持つ空間で、研究目的以外の人の立ち入りは行わない地区とされています。

【見学地①：永田地区】

永田地区の見どころは、“礫河原再生を目的とした全国初の生態学術研究フィールドとなった⑧空間であり、多摩川のシンボル「カワラノギク」の保全・再生を市民との連携で継続的に実施している”ところです。現地では、先日の台風21号がカワラノギクの開花時期に上陸したため、冠水の影響を受けた後の状況ではありましたが、それでも開花している力強いカワラノギクの姿を見ることができました。生態学術研究にも携わっていた岡田久子先生（明治大学）によるカワラノギクの生活史や生存戦略などについてご説明をいただいた後、カワラノギクの個体を踏まないように注意しながら植物観察を行いました。



カワラノギクの説明



カワラノギク等の植物観察



カワラノギク

【見学地②：谷地川合流点地区】

谷地川合流点地区の見どころは、“多摩川の中でも最も変化の著しい⑧空間で、多摩川の将来の姿を見据えて、先進的な治水と環境の調和した川づくり（礫河原再生）を実施している”ところです。現地では、多摩大橋から自然再生地区全体を外観した後、河川敷に下りて、自然再生の一環で工事期間中の魚道の役割で整備された「せせらぎ水路」を見学するとともに、先日の出水（台風21号）で再形成された礫河原でカワラケツメイ等の河原植物を観察しました。星野義延先生（東京農工大学）による自然再生・河原植物の説明を交え、礫河原再生の手法やその後の環境変化などについて参加者との意見交換がなされました。



河川敷に広がる広大な礫河原



「せせらぎ水路」の見学



自然再生・河原植物の説明



河原植物の観察



カワラケツメイ



ハリエンジュの幼木

【見学地③：浅川合流点地区】

浅川合流点地区の見どころは、“多摩川の最大の河原植物の生育地となっている⑧空間で、関係者の地道な努力により維持されている貴重な環境”です。現地では、維持管理されているカワラヨモギ、カワラサイコ等の河原植物を見ることができた一方で、シナダレスズメガヤの侵入繁茂という新たな課題について地元の活動団体との意見交換がなされました。



自然再生の説明



カワラヨモギ



シナダレスズメガヤ

2. 第49回多摩川流域セミナー

テーマ：「⑧空間に行ってみよう!! 多摩川の自然再生の取り組み」

● 開会挨拶（神谷 博氏（多摩川流域懇談会 運営委員長））

多摩川流域セミナーの趣旨を多摩川流域懇談会の経緯とともに説明され、多摩川の環境の象徴である⑧空間の様々な問題を、パートナーシップの精神に基づいて、皆さんのアイデアをいただきながら解決していきたいとお言葉をいただきました。



神谷氏

● 会場挨拶（小倉 紀雄氏（東京農工大学名誉教授 カワセミハウス館長））

今年の4月にオープンした「カワセミハウス」の経緯、地域の役割についてご紹介いただくとともに、ご自身も関わってきた永田地区の生態学術研究を原点とする多摩川の自然再生への思いについてお聞かせいただきました。



小倉氏

● 『本日の現地見学の振り返り』（榎原 賢二氏（京浜河川事務所 河川環境課））

先日の台風21号による洪水前後の多摩川の様子をドローンで撮影したビデオをもとに解説していただきました。浅川合流点地区（下流側）では、切り下げた河川敷が冠水している状況が確認でき、礫河原の再形成が期待できそうです。



榎原氏

● 『本日の現地見学の振り返り』（星野 義延氏（東京農工大学農学部 教授））

生態系保持空間（⑧空間）の川の魅力が失われつつある現状を踏まえ、関わり方を見直す必要があることを、永田地区の生態学術研究成果を例にお話いただきました。多摩川の恵みを持続可能にするためには、現状を理解してもらえるように、さらなる情報発信や人材の育成が求められるなどの方向性をご示唆いただきました。



星野氏

● 意見交換（コーディネーター：佐山 公一氏（TBネット））

◇ コメンテーター

- ✓ 星野 義延氏（東京農工大学 教授）
- ✓ 岡田 久子氏（明治大学農学部研究・知財戦略機構 客員研究員）
- ✓ 国頭 正信氏（京浜河川事務所 総括地域防災調整官）

「多摩川を歩く」で見学した⑧空間・自然再生地区に関する参加者からの意見・質問に対して、コメンテーターより回答をいただきました。参加者からは、河原植物の生態、今後の自然再生の考え方など、自分たちの関わる多摩川の環境を残していきたいという熱意を感じる様々なご意見をいただきました。



星野氏



岡田氏



国頭氏



佐山氏



セミナー会場の様子

● 閉会挨拶（服部 敦氏（京浜河川事務所 所長））

本日のセミナーを通じて、⑧空間の関わり方についての市民との緩やかな合意の中、多摩川の環境をより良くするためには、行政と有識者に加え、地域の皆さんが一体となって、自然再生に取り組んでいくということが大事だと改めて感じましたと締めくくられました。



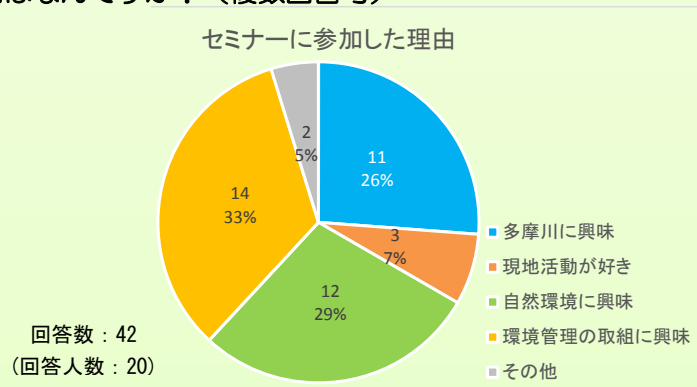
服部氏

3. まとめ

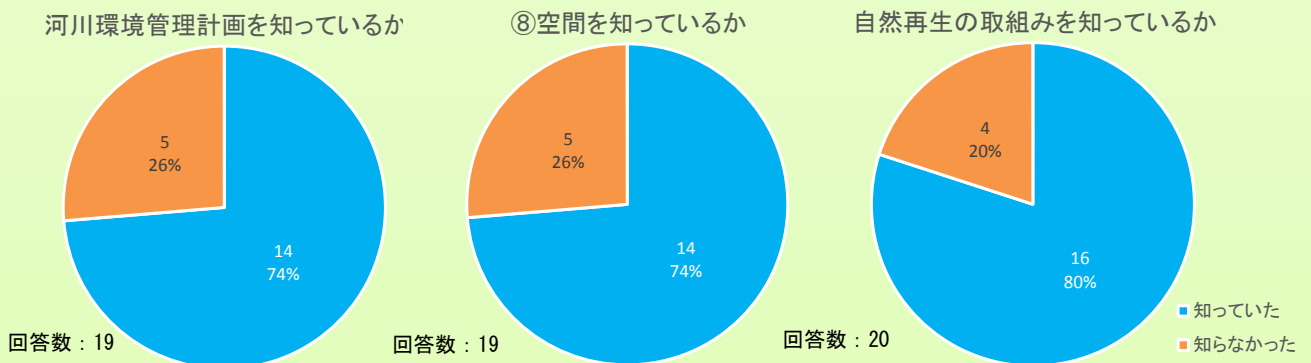
今回の多摩川を歩く・多摩川流域セミナーでは、多摩川の⑧空間の実態、自然再生の取り組みについて、専門家からの解説と併せて現場で確認することができ、⑧空間を含む多摩川の環境への理解が深めることが出来たのではないかと思います。また、現場やセミナーでの意見交換の内容、アンケート結果からも、地域の皆さんの多摩川の環境を残していきたい、より良くしたいという思いの強さを感じることが出来ました。これからも、多摩川の川づくりに市民の皆さんに関わっていただけるよう、多摩川の現状を知り、意見交換できる場として、多摩川に関するセミナー等を色々なテーマで開催して参ります。

以下、参加者へのアンケート結果の一部をご紹介します。

設問①：本日参加した理由はなんですか？（複数回答可）



設問②：多摩川で河川環境管理計画や⑧空間の設定、自然再生などの環境を守る取組みが行われていることを知っていましたか？



設問③：自然再生などの環境を守る取組みは必要だと思いますか？

